



建設会社の会社案内の表紙のために描いた作品です。自然界には、私達が見習わなければならない事がたくさんあります。AADCも誕生したばかりのヒナ鳥。という事でこのイラストを今回は選んでみました。尚、この機会にいままでの仕事で描いた作品を寄せ集めて、友人のイラストレーター・真田幸広氏と2人展をする予定です。過去の作品を見直す反省展であり、これからの仕事に対して自分へのプレッシャーになればと思います。私は動物が中心、真田氏は人物中心です。11月3日～15日、西武の連絡通路で開催予定。
イラストレーター 福士成悟

いま、クリエイターの熱い思いが集まった。



旭川広告デザイン協議会 会長 小野 慶治

平成元年1月28日、旭川に活動の拠点をもつ広告クリエイター一同が共通の目的をもって結束し念願であった「旭川広告デザイン協議会」が誕生した記念の日であります。また、発足にあたり各界からのデザイン環境の現況と未来への期待や激励の言葉は会員の一人一人が社会の中の一クリエイターとしての自分を再認識した日でもあらうと思います。

現在、それぞれの自分のジャンルやポジションの枠内だけに籠ることなく夢と挑戦を求め自主的に集ったメンバーは、デザイナー、フォトグラファー、コピーライター、イラストレーター、映像クリエイター他、など61名を数えています。まだ、スタート間もないため先ずは所期の目的をしっかりと見定め会の基礎づくりから、を合言葉

に活動を始めているところです。特に初年度は組織の整備と会員相互の親睦交流、個人と業界の質的向上を重点目標に据え手始めは足元の出来ることからと極めて多忙な中を会員のご苦勞で行動を開始しています。すでに研修会や講演会&懇親ピヤパーティをはじめ会員名簿の作成やミニ情報紙の発行など会員相互の情報交流をはかりながら協賛・協力法人・団体への協力依頼など組織の充実に努めています。また、対外活動としては微力ながら明年開催予定の「国際デザインフェア」や頭脳立地法の指定を受けてつくろうとしている「総合デザインセンター(仮称)」構想へのお手伝いなどもさせていただいているところであり地域発展への協力も申し合わせています。

まだ、ほんのスタートの緒についたばかりのこ

の会がなすべき事は山積しており、またネックも多々あります。しかし、これらをひとつ、ひとつ、乗り越えなければ目的に近づくことはできないわけでそのためには会員一人一人の自覚とデザインへの情熱が不可欠であることは申すまでもありません。幸いこのたびの会報「マガマ」の発刊は会員の多数の熱意によるもので会員相互はもとより未知なる外部の方々との交流をはかることも目的としたもので会報は会の活動強化に大いに役立つものと考えます。

旭川広告デザイン協議会は会員の総和のもとに個々の向上をめざしながら地域社会とデザイン業界の発展に努力し協力していく所存であります、関連各界はもとより多くの方々のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

協議会活動に期待する!!

旭川市商工部長 藤澤 貞二

旭川市が頭脳立地法の指定を受けて、第3セクターで作ろうとしている、「総合デザインセンター（仮称）」の構想が少しずつまとまりかけてきています。

関連産業や学術機関との連けいの下、北国の気候風土等の立地特性を活かした新たな産業の創出、振興、製品や技術、デザインの開発等の事業の中心となるのが、この施設に他なりません。

パイロット工場やオープnstudio、CADやCGといったハード面ばかりでなく、人材バンク、デザインゼミナール、デザイン情報サービス等各種事業の展開によって人と情報の交流拠点としたいというのが、おおまかな考え方であり、

各地から多種多様な人々や情報がここに集まり、新しいビジネスチャンスが生まれ、漸新な製品や作品が誕生する、デザイン発信基地を目指すのが構想の一端であります。

地域指定を受けるためには、他市との競争に勝たなければならず、そのためには、AADCなど関連業界団体の自主活動を通じて、デザインに係る人材や事業の集積を高めることが是非とも必要でありますので、協議会活動の一層の活発化についてよろしくお願い申し上げます。

運営の妙を望む

旭川広告業協会 会長 本田 英夫

協議会の発足時に祝辞で述べたように、新しい旅立ちを心からお祝い申し上げます。今後の精力的な展開と発展は期して待つべきものがありますが、運営を誤ると単なる親睦団体と化し、所期の目的を達せられない恐れがあるので、敢えてこの際一言申し上げたいと思います。

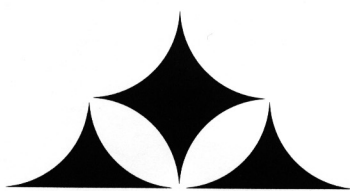
それは、この会が何を目的として設立されたかを、会員一人ひとりが常に念頭に置いて行動することが、最も大切なことであり、基本になることです。ともすればクリエイティブの世界に身を置く人たちは、とかく一匹狼になりやすく、自己中心的に陥ち入りがちで、情報源に乏しくなりがちです。

創造の感性は、特に商業美術に携わる以上、絶えず時代のトレンドを適確にとらえ、その上に立って磨かれなければならない、一人よがりの作品は一銭の価値もありません。

だからといって会員同志のなあなあを奨励する訳ではありません。同じ道を歩む人たちが、手を取りあって横のつながりを持ち、切磋琢磨の場として、意識的にこの会を活用することが肝要で、初心を誤ると一部会員だけの親睦の場になりかねない危険性ははらんでいるわけです。

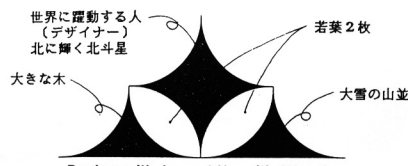
従って、会の発展のためにも作品の発表会など対外活動を強化し、対内的には情報源としての機能の充実につとめることが、これからの課題といえるでしょう。いろいろ難しい注文をつけましたが、協議会の誕生は私ども広告業界にとっても待望久しいものであり、お互い手を取りあって、北の情報発信者として、広告表現の水準向上に、積極的な交流を深めたいと心から希望しています。

「国際家具デザインフェア旭川'90」シンボルマーク 上田政夫氏の作品に決定!!



Design with Love, Life with Wood.

INTERNATIONAL
FURNITURE
DESIGN
FAIR
IN ASAHIKAWA
1990



Design with Love, Life with Wood.

100年を迎える旭川は鮮やかな四季と豊かな自然美に恵まれた輝きのある北のデザイン都市を目指します。このシンボルマークは北海道の中心の大地から大自然と調和のとれた人（デザイナー）が家具を

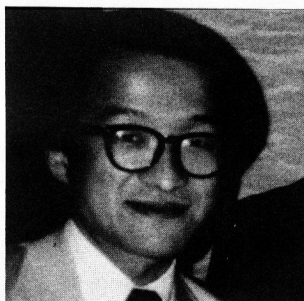
どうして国際的に躍動し輝きを発信することを表現しています。そして、2枚の若葉は、愛とやさしさ、豊かな暮らし、未来に向けた創造の願いでもあります。

4月末に国際家具デザインフェア旭川 '90事務局よりシンボルマーク制作の委託を旭川広告デザイン協議会が正式に受け、全会員にコンペ参加を呼びかけました。5月26日、勤労者センターにおいて、審査会を開催。40点の作品が集まりました。厳正な審査と高レベルの作品を選定するために、会員の他に旭川広告業協会より本田会長、紺野副会長に審査委員長、同副委員長として加わっていただき、無記名投票により5次の審査を経て決定されました。

最優秀賞 上田政夫氏（スーパースタジオ）
優秀賞 若林茂幸氏（アクト）
入賞 福士成悟氏（クリエイティブスタジオワイズ）

の各氏が入選されました。おめでとうございます。また応募されました会員の方々審査会に出席されました会員の方々本当にありがとうございました。今後も機会がありましたらこのようなコンペを企画、開催していきたいと思いますので会員の皆様のご協力をお願いいたします。（研修部会）

「ズームアップ」



（デザイナー）
上田 政夫
昭和27年7月24日旭川生まれ
日大芸術学部卒

（株）キタ・パブリシティ
（株）スタジオタム
（株）北海道たき徑て

昭和62年スーパースタジオ設立
旭川市豊岡6条6丁目2-2 TEL34-3672

||||| 私たちの会も応援します。 |||||

国際家具デザインフェア旭川 '90

- 開催期間** 平成2年7月3日～8日（6日間）
開催場所 旭川市民文化会館
旭川大雪アリーナ
道北地域旭川地場産業振興センター
- 主催** 国際家具デザインフェア旭川 '90開催委員会
- 概要** 国内の主要家具産地である旭川市で、世界の家具デザイナーと市内家具企業との交流および新たな家具デザインの発掘をめざし、「国際家具デザインフェア旭川 '90」を開催する。
このフェアは、「国際家具デザインコンペティション」「国際家具デザインシンポジウム」「国際家具デザイン展」の3つの事業構成により開催される。
- 「国際家具デザインコンペティション」
「木製家具」をテーマに、88年1月以降に商品化、または発表された木製家具、および未発表の木製家具の作品を募集する。
募集締切は、90年1月31日必着。表彰式は、90年7月5日の「国際家具デザインフェア旭川 '90」のレセプション会場で行なわれる。
賞は、グランプリ1点300万円、金賞1点100万円、銀賞2点50万円、銅賞3点30万円、審査委員長特別賞1点50万円。
 - 「国際家具デザインシンポジウム」
国際的なデザイナーによる「日本の住文化と家具デザイン」について基調講演、シンポジウム及び分科会等を90年7月5・6日の2日間旭川文化市民会館大ホール等で開催される。
 - 「国際家具デザイン展」
コンペ入賞作品のほか、国際色豊かな家具の展示が、90年7月3日から8日の6日間旭川大雪アリーナ、道北地域旭川地場産業振興センターにて開かれる。

問い合わせ先
国際家具デザインフェア旭川 '90開催委員会 TEL 0166-26-8528

研修部会からの報告

「臼井栄三氏講演会に43名参加」

去る5月20日、TCC（東京コピーライターズクラブ）、SCC（札幌コピーライターズクラブ）会員の臼井栄三氏を招いて、「北海道の広告づくり」をテーマに講演会を開催しました。会場のニュー北海ホテル（2F錦糸の間）では、スライドを利用して、氏の作品を上映しながら、非常に有意義な講演会となりました。広告にたずさわる者として改めて広告づくりのおもしろさ、大変さ、また大切さなどを認識したと思います。臼井さん、未熟な私共の会にすばらしいお話を本当にありがとうございました。

また、講演会後には福祉部会の主催で同ニュー北海ホテルさんのご好意、ご協力でオープン前の4Fピアガーデンを開放していただき、懇親会を開催いたしました。心配していました寒さも気にならず、おいしいジンギスカンを食べ、ビールを飲み臼井氏を交えて親睦を深めました。

記録部会からお知らせ

いい顔、いい話。

記録部会では今までの活動記録をカセットテープ、スナップ写真で保存しています。

お気軽にご利用ください。

- ・お問い合わせ先：旭川市豊岡6条6丁目
TEL 34-3672 上田（記録部会）

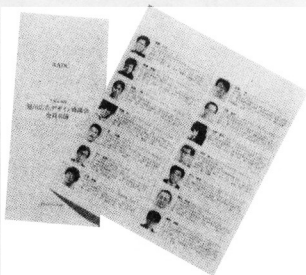
記録テープ

- 1月28日 設立総会・懇親会（約80分）
- 2月20日 消費税説明会（約90分）
- 5月20日 臼井栄三氏講演会（約80分）

スナップ写真

- 1月28日 設立総会・発会式・懇親会
- 3月11日 帯広デザイナーズ協会デザイン展展示風景
- 5月28日 臼井栄三氏を囲んでのビールパーティー

AADC会員61名の会員名簿が皆さんのご協力で完成しました。



参加していただいた会員、会員以外の皆様本当にありがとうございました。今後もこのような会を企画、実施してゆくつもりです。会員の方々の要望や情報など、どんどんお知らせ下さい。（研修部会）



研修部会からお知らせ

展示講習会！！

『SIPS '89 in 旭川』開催

デザイナー必見！！

デザイン用品、印刷関連機材、OA機器等、我々AADCとは切っても切れない関係のいづみや札幌が、初めて旭川で専門機器等の展示講習会を開催します。その名も『SIPS '89 in 旭川』シップスとはSapporo Izumiya Privato Showの頭文字で、新しいデザインの波に乗る船と云う意味も含めているそうです。今回は、デザイン、フィニッシュワークをより美しくスピーディに仕上げる最新鋭のCGや作図機等、時代の流れの中でデザイナーが見逃すことのできないこれからのプロダクト機器。さらに道内ではなかなかお目にかかれない洋書の数々を展示出品、そしてビデオによるデザイン、フィニッシュワークの現場情報等、とにかく見逃す事はそれだけで損！！時代の先端を行くデザイナー諸氏必見の展示講習会です。（研修部会）

主催／株いづみや札幌

後援／旭川広告デザイン協議会

北海道印刷工業組合旭川支部

●日 時 10月13日（金）PM3:00～PM9:00

10月14日（土）AM9:00～PM3:00

●会 場 ときわ市民ホール（101号室）

旭川市5条通4丁目

出品機材

- 自動版下作図機
〈ライナックスV32〉
- コンピュータグラフィック
〈マッキントッシュII〉
- 完全明室小型カメラ
〈リニアス2000〉
- カラーステーションコピー
〈ピクセルディオ〉
- 電子編集機〈EZPS・3200〉
- 洋書コーナー
- ビデオシアターコーナー

お問い合わせは

株いづみや札幌営業所
☎011(241)5431（宮村）

会報発刊のお祝いについて

旭川商工会議所 産業情報部 竹内 肇

先に発足いたしました、旭川広告デザイン協議会がこの度、会報を発刊するに当たり、一言お祝いを申し上げます。

旭川市は来年に開基100年を迎えることになり、各種の催し物が計画されておりますが、その記念事業として、国際家具デザインフェア '90が計画されております、この事業の内容は世界中から家具のデザインを募集して、コンペティションをしようというもので、国際的デザイン都市を目指している旭川市としては、意義あるイベントであります。また既に名乗りをあげております、頭脳立地法の指定もデザインを中心に考えてのものであります。

このようにデザイン都市を目指しての構想は、協議会会員の皆様の協力が是非共、必要になってまいります。皆さんはそれぞれの専門分野での、プロフェッショナルの集団であります。この機会に旭川市発展の為に、ご尽力下さいますようお願いいたします。

最後になりましたが、会報発刊により会員の皆様の、交流が促進され、より会の運営が活発になりますことと、会の益々のご発展をお祈りします。

「旭川広告業協会」が協力会員に！

旭川広告業協会（会長：本田英夫氏）がAADCの協力会員として毎年50,000円の資金援助をしてくださることになりました。厚くお礼申し上げます。

これは旭川広告業協会が広告デザインの向上のために我々クリエイターに大きな期待を寄せてくれているからであり、私たち会員はそれぞれの立場で心新たに創作の意欲を燃やし切磋琢磨していこうではありませんか。



ニューブレンファクトリー
印刷元年

TOTAL PRINTING

株式会社 須田 裁版

旭川市忠和5条8丁目

☎(0166)62-2266

札幌／苫小牧／滝川



I&IのFUJI FILM

気品あるプロ仕上げをお約束します。

色鮮やかスライド現像、フジクロームPRプリント



写真の事ならフジカラー旭川へお任せ下さい

フジカラーコピーのご用命はプロプラザへ

株式会社

フジカラー旭川

☎070 旭川市旭町2条7丁目 TEL (0166) 53-6605

PROPLAZA

ASAHI KAWA

☎070 旭川市5条通7丁目 TEL (0166) 24-7831

旭川を拠点にしたツーリングビデオ 全国にむけ発売中



昨年、本州からやって来たライダーは10万人。今年はすでにその記録を更新しそうな勢いですが、北海道録画センター（井下佳和代表）では北海道を訪れるライダーに確かで便利な情報を提供しようとツーリングビデオを制作しています。

第一作は旭川から知床までのダイナミックな60分。

第二作は、初夏の北海道をロマンチックにまとめた環大雪編、45分。そして、撮影も順調な第三作はオロロン、オホーツク編です。全国の書店で一作目と二作目が仲良く並んで、売行き好調の様です。テープには道路の注意個所など、スタッフが独自に集めた情報をもとに制作した「マップマップ」がもれなく付いています。道内を6ブロックに分けて紹介するこの企画、スタートはいずれも旭川、そしてガイド役は旭川っ子の女性ライダー。

私たちの住む旭川を私たちの手で紹介しようと、スタッフ一同がんばっています。



プロデューサー 井下佳和

お問い合わせは ☎34-2700
(株)北海道録画センター

サハリン14日間の旅

写真家 後藤昌美



今年1月からソ連領事館と交渉し、サハリンの撮影許可がおりたのは6月上旬だった。7月6日の稚内発の観光チャーター船を利用させていただき、8時間の船旅でホルムスクに着き、バスにて2時間で州都ユジノサハリンスクに着いたのは夜であった。

翌日サハリン観光公団のグリコ総裁と、今後の計画を話し合った。サハリンは、日本と日ノ出日ノ入は、さほど変わらないが、時間差（サマータイム1時間）が3時間早く、最初は多少とまどいを感じた。私のガイドをひきうけてくれたのは、釣り名人でハンターでもあるヴィレンスキーさんという人で、車は軍の払い下げのジープであった。最初は市内近郊を廻り、3日目にドルニスク方面の海岸に行くとのことでサハリンツーリストの方々9人で二台の車に分乗した。ガイドのジープ

ともう一台は、日本の映画隊がおいていった、最新のオフロード4WDであった。1時間ほど走り、小さな村をすぎるとそこからは、砂浜と岩の間を走り、崖の上、沢を渡り、30分程でサケの番屋に着いた。そこでは岸の岩場近くに差し網をし、今はカラフトマスを捕っていた。私はさっそくカメラを肩に周囲を撮影した。海岸線の花は、ほとんど北海道と同じものであった。1時間程してもどると、皆は岸辺で昼食を始めていた。例のごとく、ウオッカとイクラ、サハリンでもあまり手に入らないキャビアも並べられていた。そこに先ほど網からはずしたばかりのマス料理ができた。日本風にいえば、塩コショウで味付をした三平汁のようなものである。沖合の岩場にはトドが50頭ほど上がっていた。漁師の人が、岩場まで船を出してくれるとのこと、さっそく乗り込んでトドの撮影に向った。近づくにつれ一匹又一匹と海にもぐってしまい、100m位ですべて海に逃げられてしまった。



三好プロフオート

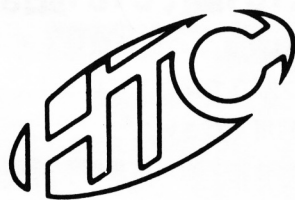
マリナーズ大活躍!!

三好プロフオート（三好武雄代表）が、2年前から出資している野球クラブ「三好プロフオートマリナーズ」が今年も好成績をあげています。日産グリーンカップ旭川地区予選ベスト8進出を契機に、旭川軟式野球連盟主催おはよう朝野球上期大会B級で優勝、ディックファイナンス全国草野球大会旭川地区予選優勝など、輝やかな成績をあげ、選手として参加している典仁君もガンバっています。尚、チーム強化のため若い力を募集中、やる気のある人はぜひご一報を。



☎22-4613（三好プロフオート）

無限の可能性に向かって...



株式会社
北海道録画センター

代表取締役 井下 佳和

旭川市豊岡7条2丁目 ☎34-2700

帰りも又大変である。私どものジープは、深い砂浜をなんとか走りきったが、日本車は、とうとう動けなくなってしまい、番屋の大型トラックの助けにより、脱出できた。帰りにイトウ釣りでは有名なトナイチャ湖によった。又ここのロッジでもウオッカとマスの料理がでた。毎日酒にひたって、いっこうに撮影は進まない。

後半は自動車と汽車で50度線を越え、アレクサンドルフスクへと向った。ここでは市長さんが一日市内近郊を案内してくれた。市街が見える高台に行くと、軍のレーダがあり、今回初めて撮影をしないようにと言われた。市街を撮るには、手前の木がじゃまになるので、レーダの建物に上っていいか聞くと、しばらく考えた末「だめだ」という答が返ってきた。夜は市長さん方とレストランで夕食、又酒…サハリンのレストランはバンドが入っておりロックからムードのある曲と、人々はそれに合せて踊りを楽しんでいる。

今回の撮影旅行では、途中で車を盗まれ、警察の事情聴取を受けたり、ハンターの猟銃を撃たせてもらい、海水浴場でホッキ貝を拾い、さしみにしてガイドに無理に食べさせたり、この他様々な人々との出会い、皆さんが大変歓迎してくれた事が、私にとって撮影より有意義な、14日間の旅であった。今は秋の渡航を計画中である。



私のカヌー一歴

スタジオマンモス
チーフカメラマン 丸山 彰一

始めた動機は、私は愛別に住んでいて、石狩川を見ながら毎日通勤しています。スキーを始めてから、何か夏もないかなと考え、そうだとカヌーがいいと思いました。旭川カヌークラブに入り、初乗りは大雨の降った次の日のチョコレート色の石狩川で。この川を見て今日は乗らなくてもいいと強く思ったのですが、先輩のつわものが「乗ろう、乗ろうこんなのはなんともない、僕の言った通りに漕げば大丈夫だ……」と言ってきません。郷に入っては郷に従えで、内心「一児の父親増水の石狩川で……」なんて新聞ざたになるんじゃないかと、不安を感じながら乗り始めましたが、しかしその日は沈する事もなく無事に終わりました。いまでもあのチョコレート色の石狩川は忘れません。やり始めた年、何回かしか乗らないうちに北海道選手権に出場（というよりは参加）する事になり、昔からスポーツとは無縁だった私にいきなり国体予選とはおもしろいと思いました。カヌーに乗っていると何度も沈します。しかし



沈は楽しい事です。始めて沈した時、それは遠い子供の頃を感じた事のある、あの一瞬のハッと言う感じ、現代の我々が日常忘れていた自然に対する緊張感、そして慌てた後のあの可笑しさ、楽しさ、それは純粹な遊びです。それは本当に懐かしい気がします。

沈は、おっくうなものでもあります。それを乗り越えて四年目の夏でしたか、ちょっとしたうねりのある流れを下っている時、空は青く雲は白く木の緑、水の輝き、顔にかかる水しぶき、自分はなんとリッチなハッピーな事をしているんだと、しみじみと感動しました。そんな事を感じる余裕もできました。旭川には川がたくさんあって、カヌーゲレンデにも非常に恵まれています。皆さんもぜひカヌーを始めませんか。

” 89 の夏も熱くもえました。

野球狂の季節

コピーライター 勝浦 恭子



夏は少年野球の季節。甲子園の高校野球は国民的行事といってもいいほどのフィーバーだが、ここまでいなくても、あっちのグラウンド、こっちの河川敷で、少年たちがボールを追いかけて走り回っている。この猛暑をものともせずグラウンドを駆け回る彼らの夢は、やっぱり甲子園なのだろう。

世に野球狂と自認する人は多い。TVで今年の優勝チームをめぐる、カンカンガクガクの議論が展開され、それに対する抗議の電話までくる始末。自らプレイしなくても、それほどのもめり込める魅力があるというのは、大したものだ。

かく言う私は、TVでナイター中継が始まるとうんざりするクチ。9時からの洋画劇場をビデオにセットしておいて、ナイター中継がずれ込んだため途中で切れていたりするとカッカする。「どの局もナイター中継するというのはおかしい!」と、新聞に投稿する人に同感だ。

ところがです、この夏は一転して野球のおもしろさに目覚めたのだ。というのも、小5の息子がリトルリーグに入団し、子供自身はもちろん、監督、コーチ、父母など、損得抜きで「野球こそ命」という人たちの熱気に巻き込まれてしまったから(?)

一步入ってゲームを見てみると、「これだもの、野球はおもしろい!」と、ついついのめり込んでしまう。投げた! 打った、エラーした! と、思わぬ展開がまた楽しい。日曜、祭日もなく、連日練習をつける、監督、コーチの熱意はハンパじゃない。ただただ「野球が好き」の一言につきる。こうして私も親バカ高じて熱血野球狂の一員になっていくのだろうか。

周りの人からは「好きねエ」と嘲られながら、明後日に迫った全国大会出場の日に向けて、胸キュンのこの頃なのである。

薄氷のはったジョッキの生ビールでその幕が開く。テーブルのコンロに火をつける。次々に焼かれ、そして女達の口に運ばれるサガリ、ホルモン・牛舌・乱切野菜……



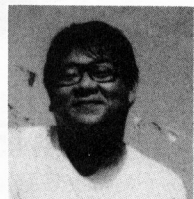
ここに幸あり

店主の目をぬすみ TAKE-OUT して食べながら帰るしまつ。見栄も外聞もプライドも化粧直しも捨てさせた夜。その分軽くなった女たちは、満ち足りた思いで眠りに落ちてゆく。食べ飲み放題 二千円也。街はずれの住宅地の焼肉屋。知る人ぞ知るその店を、女たちは誰にも明かすことはない。たこやうちは二軒の店もとつ



イラスト 工藤登美子

「WISE」から「WORDS」へ



西館コピーライティングオフィス
▼ワーズ
コピーライター 西館 眞

五月十二日、僕は交通事故を起した。

朱鞠内湖で釣りを楽しんだ帰りの道中、ゴミ清掃車と衝突したらしい。らしいというも僕は一切の記憶がなく、気がついたときには病院のベッドで点滴を受けていた。

母親から事情を説明され、そうなのかと呆然していると富士さんが飛んできた。

「西ちゃん、大丈夫かい」

「ああ、富士さん、本当に迷惑かけちゃいました。ごめんなさい」

「いや、そんなことはないよ」

「富士さんには、中学校の頃からお世話になりっぱなしで……」

僕が富士さんと出逢ったのは三年前である。後日、母親に聞くと、そのとき富士さんは顔面蒼白となり言葉を失ったようだ。ついでに母親も、これで一生息子の面倒をみなければならぬと観念したなんて話していた。

陽は昇り、陽は沈む。サンライズ・サンセット。あつという間に五十日。退院です。

僕はいま、富士さんの『ワイズ』を離れて『ワーズ』として一人で仕事をしている。相変わらず富士さんにはベッタリと甘えているけれど、「はい、ワイズですが」「もしもし、ワーズです」と電話で会話すると、何となく寂しい心持ちになるのも確か。複雑な心境です。でも、いつか転機はやってくる。早いか遅いかだけの違いじゃないか。だから富士さん、二年間本当にありがとうございました。そして、これからも宜しくお願いします。

入院中ご心配いただいた方々、またご迷惑をかけてしまった方々、謹んで御礼及びお詫びを申し上げます。

来るべき、
まだ見ぬ時代に備えます。

中央オフセット印刷

本社工場・旭川市5条通3丁目右1号

☎(0166)22-7507(大代表)

第2工場・旭川市4条通3丁目左6号

台場輪転工場・旭川市神居町台場127番地

札幌支社・札幌市中央区南3条西12丁目

札幌キャピタルビル4F

☎(011)261-6081

Do the Best.

日本発色、'89年のテーマです。

美しき存在感。日本発色のプリント

NIHON HASSHOKU
日本発色

札幌事務所

札幌市中央区南2条西10丁目1-4第2サントービル1F
電話 (011) 231-1841**バス・ストップ**

フォートオフィス近藤 近藤多美子

♪バスを~~待つ間にイ

涙を拭くわぁ~~」

平浩二を記憶している方は居ますか？カラオケの十八番にしている方は居ませんか？

久々の旅行を、紫陽花の咲き誇る北陸・能登・飛弾で7日間を過しました。滅多にバスに（勿論、飛行機もJRも）乗る機会がない私は、況して一人旅はターミナルで多くの神経を使う事となりました。

JR、ANAと乗り次ぎながらの道中も、やはりバスの利用が多く、路線・定期観光・観光貸切り等のバス利用で目的地を訪れました。

金沢市では「新バスシステム」化されたバス停に出逢い「このマークが出ますと間もなくバスが来ます」の文字に思わず「親切！」とつぶやき、点滅するマークも左側も2つ先まで来ていて、右のマークが点滅すると、すぐにバスが来ますの表示に、又また「こうでなきゃア」とうなづきました。ずらりと表示された行く先の隣でパッ・パッと点滅するマークと、きれいで沢山置かれたベンチは、待つ人にとってはとても親切。パンフにあった文字の「国際観光都市」も納得！

もう一つ富山県の井波町は木彫の町。瑞泉寺の山門は彫刻のすばらしさで有名ですが、身近な橋の欄干や店の看板、電話BOX、そしてバス停のマークもが龍の木彫なのです。このコダワリ、この迫力。

いろいろな仕事のオリエンからプレゼンまで、社員全員が飛び廻っているうちに我が社の宣伝を忘れてしまいました。

株協同案内企画旭川支社 —— どうぞよろしく。

さて、帰旭して駅前に立った私は、我が家に帰る為のバス乗り場が分らない！日頃自家用車を利用している為の知識不足なのですが、なんとか見つけられたものの、時刻表や行く先が理解しずらく、バスが来る度にこのバスかな？と神経の使う事。重い荷物を持ってベンチもなく、やたらジグザグに並んでいる自転車の大乱立も異様な目ざわり感で、心を重くして帰宅しました。



デザイン都市で木工の街、そして滞在型観光都市を目指す旭川市は、バス停ひとつさえもがユニークで且つ親切であって欲しいものです。それは団体バスが通過するのであれば不要ですが、一人の旅人が街で頼りにするのは案内板とバス停の表示です。（実は車の運転手もバス停の表示を案内に行く先を捜します）赤サビだらけで文字が読めなかったり、小さな文字であったり、黄ばんだアクリル板と退色したゴム印の時刻表であっては役立ちません。車中からは、次の停留所が分かれば乗り慣れない人にとっては親切です。

帰旭数日後、私は街かどで輪切りの木に「8条14丁目・次はスワンハイツ前」と実に見やすい表示と老人と子供も理解し易い地図と時刻表のバス・ストップで、木の香りが漂うベンチに両手いっぱい荷物を持ち、バス待ちしている私自身の夢を見ました。

**「ひとりっ子」**

カラー工芸社 代表 今津 秀雄

「カラー工芸社さんは、何人カメラマンがいるの」と聞かれて「社長を含めて3人います」と答えたら「あれ！社長はキツネしか撮らないのでは…？」と云われたと、当社の若いカメラマンが云っていた。そんなことはなくてコマーシャルを含めて何でも撮るのが仕事であるが、またそう思われる程キツネを撮り続けているのも事実である。

その結果、写真絵本「キタキツネの季節」がフランスなど北欧6ヶ国でも出版され、年末から来春にかけて出版される「子ギツネ」もまた外国でも出版される予定とか。

昭和53年秋、嵐山の親から別れて近文の松岡跡地に住みついたキツネも今年で4代目、私の観察歴で初めてのひとりっ子の子育てである。住みついた当初は広い原っぱであったのが、今は免許センターや道北バス、その他の建物が建ち、わずかに残された処でなんとか頑張っている。子供を産んだ巣穴がコンクリートでふたをされた為と思うのだが、そのすき間からはい出て母の乳を飲むことが出来た1匹のみが育っている。

普通は3～6匹の子供の世話で忙がしいのだが、ひとりっ子の子育ては余裕たっぷり、時間が

瞬間芸。

広告は瞬間芸、だと思う。
その瞬間に芸のすべてを見せる。
客席から、拍手が沸くか
ヤジがとぶか、その時決まる。
拍手と一緒におひねりもでるといいな、
と我社の芸人は思ったりもする。
人の温もりがつたわる広告を——。

株式会社 **北日本広告社** 旭川支社旭川市1条通9丁目（一条ビル）TEL (26)-1355代
●本社／釧路●支社／札幌・帯広**第3回 北の生活産業デザイン
コンペティション**

■部門

- A部門 工業デザイン部門
次に掲げるような分野の製品であって量産可能なもの
（家具、生活雑貨、機械類等）
- B部門 クラフトデザイン部門
金属、木、繊維、ガラス、革等を素材とするクラフトであって量産可能なもの（美術工芸作品は除く）
- C部門 パッケージデザイン部門
製品（食品等）のパッケージであって量産可能なもの

■募集作品

- 作品は、道内市町村の一村一品をはじめ、道内で生産された製品及び道内での製品化が可能な試作品とします。
- 製品及び試作品の規格については、1,500×1,500×2,000mm以内とします。
ただし、これを超えるものについては模型又は写真による応募も認めますが、この場合図面も添付してください（写真の規格は、全紙サイズ(435×540mm)として必ずパネルにしてください。）
- 試作品は未発表のものに限ります。
- 応募点数の制限はありません。

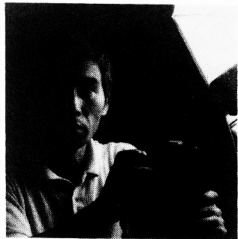
■賞	大賞	1点	副賞	30万円
	金賞	各部門1点	〃	10万円
	銀賞	〃 1点	〃	5万円
	銅賞	〃 2点	〃	3万円
	奨励賞他	若干点		

※詳細はAADC事務局 電話22-2794(株：アドス内)にお問い合わせ下さい。



余って両親仲良く遊びに出たり、小さい時からの勉強、なめる様な可愛いがり方、何か今の若い人達の子育てを観ている様だ。ただ人間と違うのは、親の将来を子供にたくさないことだ。6月の中旬過ぎに父親が離れて母子家庭になるのはいつもと同じだったが、7月に入ると父親がまた巣穴の近くで見られる様になり、そんなに子供から離れたくないのかなと思っていたら、母親が左前足を失い、その母親に代わって父親が子供の教育を行っていたのだ。子供が親と同じくらいに大きくなって、その動きに母親がついて行けないのである。この自然のドラマを私のベーターカムは撮り続けている。いつまで撮れるか、それは運と体力にかかっている。

盛安・松本氏に次いで 梶畑好男君APA会員に



フォトズームカジハタ代表梶畑好男氏がAPA会員に推挙されました。APAとは日本広告写真家協会の略称です。名誉会長秋山庄太郎氏、会長中村正也氏が務め、北海道地区委員長には青柳誠哉氏が務めております。創立は昭和33年。永い歴史の中で早崎治、藤井秀樹、望月剛の各氏を始め日本屈指のプロカメラマンを輩出して来た協会です。今年度の新会員は全国で29名。北海道より2名が審査を通過しました。旭川では盛安俊彦、松本新（札幌移住）の両氏に次いで3人目のAPA会員です。



2人の夏は暑かった 夏もヘチマもある

AD.D 伊藤友一（北海道たき）
P 三好典仁（三好プロフォト）

今年は二色刷という事でその表現に苦労しましたが、LIVE JAMそのものが、オシャレなステータスシンボルとなれば良いかなあと云う視点から制作しました。人物の右頬の中間トーンの調子、黒ベタ部分のしまり、白部分の抜け等、プリント（三好）、製版・印刷（須田製版）各社には大変苦労して仕上げていただき感謝しています。また、わがままなADの要望に応え、夜中までかかって撮影してくれた三好武雄先生、典仁君、モデルの高山さんありがとございました。そしてコンセプト上のアドバイスをいただいた電通の南氏、さらにこの様なタイプの作品を採用してくれました、ミュージックフェスティバルの事務局、審査員の方々、私は皆さんに感謝、感激、感動!!（伊藤）

学習まんが 旭川の歴史

9月末発売予定



北日本広告社勤務
幡野由枝 女23歳



旭川市開基100年にむけて「学習まんが旭川の歴史」という単行本を制作中です。仕事でイラストはかいていますが、マンガをかくのは初めての経験で、とんでもない苦勞をしてしまいました。（そうでもないけど）

脚本は大沼克之氏が担当しまして、私は絵の方を担当しました。あの暑期中、深夜喫茶店に逃げ込んだりしながらの作業は、若さなくてはできなかったことだと自分の根性には感心している今日この頃です。

上巻約150ページ9月末発売予定。下巻約150ページ来年3月発売予定になっておりますので、是非買って歴史の勉強をして下さい。ご希望があれば、直筆でサインして上げます。本当のことを言うと、腕の未熟さなど誤魔化し切れずに出ていまして、目の肥えた先輩の方々に見られるのが一番こわいのですが、そこはかわいい女の子が一生懸命やった仕事だと思って、目を細くして見て下さい。（謙遜ですけど）

矢る気、パワー。



私たちは、現在と未来を透視するパワーで、ターゲットを射止める矢を放ちます。

株式会社協同広告社

旭川支社

旭川市4条通11丁目左1号 ☎24-0181代
本社/札幌・支社/東京・支局/青森、釧路・出張所/岩見沢、弘前

新入会員(9月3日入会)紹介

柿本昌紀 ぎよこやま工房デザイン室

電話25-0265 F A X 22-0269

自宅：緑ヶ丘3条2丁目(市住A4-02-31)

電話65-2714



イラスト 工藤登美子

近年、広告・デザインに携わる人間が扱う仕事の分野は、非常に多岐に渡っていることは、御承知の通りです。

新聞、雑誌、チラシ、ポスター、TV、ラジオと媒体もさまざまなら、クライアントも実に多様化しています。

売り出し広告から、官公庁の要覧、あるいは企業のCI戦略に関わる仕事も多くなり、トータルイメージを打ち立てるものとして、広告の持つ役割はますます重要視されています。

こうした中で、クリエイターとして再確認しなければならないのは、いかにしてオリジ

ナリティを打ち出すかということでしょう。広告物の氾濫する中で、作品の類似は極力避けねばなりません。

旭川においても、類似作品云々ということ

が、しばしば問題となっています。意図的な「盗作」、は論外ですが、自己のイメージの中にインプットされていた偶発的なものであっても、ものを作る人間には許されることではありません。

広告業界全体のレベルアップをする上でも、クリエイターひとりひとりが、原点に立ってこうした問題を再認識しようではありませんか。

クリエイターとしての 自覚とプライドを



AADC事務局長
紺野勝也
(アドス・エージェンシー代表)

卓越したコミュニケーション活動を



株式会社 電通 旭川支社

070 旭川市4条通9丁目拓銀ビル5階
電話 (0166) 23-4771(代) FAX (0166) 22-1036

楽しく、おいしく開催 「秋の懇親会」

9月3日(日)高砂台パークホテルに於てボウリングで汗を流し、焼肉ジュウジュウ、ビールでカンパイ。お楽しみ抽せん会はメロン50個の差し入れや、商社からのおしゃれグッズなどの提供で大賑わいの大満足!!夜のひと時を家族を交えてのふれあいコミュニケーションで過ごしました。またやりたいネ!!(福祉部会)

パパに負けないぞ!

オイシイネ!!



私たちは、
広告を創る
ブレンです。

HOKKAIDO
TAKI
DESIGN STUDIO

株式会社 北海道たき
〒060 札幌市中央区北大通西8丁目
☎214-5181
分室/旭川・函館・青森
旭川ヴィジョン・函館ヴィジョン

紙上
VTR

当協議会発会披露パーティの席上、各界からの心のこもったメッセージをご披露させていただきましたが、当日参加できなかった方などからの要望もあり、紙上を借りて再度ご紹介いたします。(事務局)

「旭川広告デザイン協議会」の発足を祝って

東京アートディレクターズクラブ会長
日本グラフィックデザイナー協会理事

中 村 誠

平成元年を迎え、日本の経済活動も大きな変化の波と、新しい風の中に、新たな方向を目指して進路を定めようとして居ります。

このときにあたり、「旭川広告デザイン協議会」が発足しますことは、誠に意義があり、時機を得た選択と申せましょう。

今や広告デザインの果たす社会的な役割と、企業個々に及ぼす影響力は、計り知れない程の大きなものになりました。

商品を売るという「物理的」な価値感以上に、「感性」という付加価値そのものが、商品の中核を成すほどに、「デザインの時代」となりました。商品の優位性は、商品自体のデザインの差別化と共に、広告デザインの差別化と独自性が、クリエイティブとして不可欠の時代を迎えております。

今日ここに、東京に在るデザイナーと共に、今後のいろいろなデザイン上の難問に取組む仲間が、北海道旭川の地にも誕生しましたことは、本当に心強いものがあります。地方都市におけるデザイン活動は、私共中央に在る者以上に困難が続くものと思いますが、これからの経済動向を切り開いて行く尖兵として、デザイナーの誇りをもって、お互いに頑張りましょう。

私共もできる丈の協力は惜しみません。新しい仲間「旭川広告デザイン協議会」の船出を心からお祝い申し上げ、その熱意が北海道全道をリードして参りますことを祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

札幌コピーライターズクラブ
会長 石 井 仟

旭川広告デザイン協議会のみなさま、ご発会おめでとうございます。120余の瞳がキラキラ輝いていることでしょう。あの朝日にきらめく細雪のように。

私たち、札幌コピーライターズクラブは15年前、7人のコピーライター達とのビールコミュニケーションが始まりでした。現在、正会員だけで152名を数えます。

私は常づねラブレターを書くように広告を作ります。商品や企業への憧れが好意になり恋ごころへと変わります。そして、こんないい品なら、私が好きな企業だから、ちゃんと伝えたい。受け手がわかる言葉で、きちんと届けたい。受け手の好みも知って、嫌われないように注意ぶかく。そして、受け手の目線に立って。

広告デザインを仕事とされる皆さま、もうちょっと便利になりたい。ほんの少し明日を変えたい。そんな



第1回総会風景

気持ちをもち続けませんか。私達の仕事は、そんな受け手を思いやる気持と、ほんの少し夢を見ようとする勇気とがあると、結果として、よく伝わるデザインにつながるようです。一人で出来ないことは仲間達と汗を流しましょう。そして、ビールをおいしく飲みましょう。みなさまのご活躍と、旭川広告デザイン協議会のご盛会を期待しております。

1989年1月28日

東京コピーライターズクラブ会員
札幌コピーライターズクラブ会員

臼 井 栄 三

旭川広告デザイン協議会の発足、おめでとうございます。

北海道では札幌、全国では東京という、一極中心主義な文化のまろやかな進歩や社会の発展のためには、本当はあまりよくないのではないかと、とつねづね思っております。各地、各都市が個性ある文化を持っていかなければ、面白い進展はないのです。

旭川からのデザインの波が、そして新しい広告表現の波が、僕たちの波とぶつかりあい、また新しい大きなうねりになって広がっていく。そんな展開を願ってやみません。

船出に、祝福と、激励と、大きな期待を贈ります。

1989年1月28日



発会披露パーティー



●印刷用紙全般 ●諸資材全般 ●印刷製本機械
●写真製版機械 ●公害処理機械

北海道紙工業材料(株)

旭川営業所

旭川市3条2丁目右2号
電話代25-2626番

本社 札幌市中央区南6条西17丁目
電話 (011)561-5151番
室蘭営業所 室蘭市日の出町2丁目20番
電話 (0143)46-2341番
函館出張所 函館市西桔梗町589番地209
電話 (0138)49-3773番

編集後記

■当初6月に発行の予定が遅れに遅れて3カ月、やれ忙しいの、やれ原稿が集まらないの、雨が降ったの、自転車パンクしたのと言いつつも——ごめん、とうとう頭を下げました。

■第1号はほんのウォーミングアップとさせていただいて今後にご期待下さい。

■次号の発行は'90年1月を予定しておりますので、会員の生活状況、移動、お知らせ、情報、作品等々なんでもけっこう。どんどんお寄せいただいて第2号の準備にかかりたいと思います。又、レイアウト、編集にもご参加いただき、よりユニークな会報にしていきたいと思っておりますので、アイデア、ご意見など、事務局又は、広報部員までお寄せ下さい。

■会員外の方、旭川市外の方の情報、お知らせも大歓迎。デザイン、写真に関すること、その他楽しいお便りお待ちしております。

広報部/大串・土井・種田・南・奥山・尾崎・下出・高橋
西川・吉野・若林・渡辺

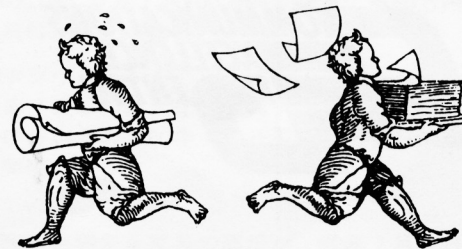
SIPS"89
in
旭川

10月13日(金)14日(土)
ときわ市民ホール

(株)いづみや札幌
TEL(011)241-5431



あらゆるニーズに
お応えします。



企画・撮影・デザイン・製版・印刷
東和印刷株式会社
旭川市10条23丁目 TEL(0166)31-5521